2015

(第 33 号)



平成 27 年12月発行日本山岳会千葉支部

発 行 者 三木雄三編集 者 吉野 聰事務局 〒283-0166 千葉県山武郡 九十九里町西野672-2 三木雄三方 T E L 0475-76-9467 E-Mail 支部だより参照

房総半島郡界尾根踏査を再開

房総の山の厳しさを実感(瀬高~横根峠) 11月21日(土) 吉野聰

昨年度は鋸山が東京湾になだれ込む明鐘岬を始点 として計 4 回、富津市(上総)と鋸南町(安房)の 境を鋸山、嵯峨山を経て保田見(ぼてみ)峠先まで到 達したところ。

第 5 回目にあたる今回は、保田見峠先の瀬高を起点として当面の目標である横根峠、津森山(鴨川市境)に少しでも近づこうというものである。



かき分けて進んでいくと突然目の前に木の枝が飛び 込んでくる。頭や目を守りながら慎重に滑りやすい斜 面の登り降りを繰り返す。樹木の中、ルートは藪でお おわれて判りづらい。

出発から2時間後、ピンクのテープに沿って下っ

てろたまの思ののわずのににて別ののときまでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、ないでは、これのでは、ないでは、これのでは、これ



んでいることが判明。横根峠までは水平距離であとおおよそ 1.2 キロ。山口リーダーが「何より隊員の安全のため無理をしないで今日の踏査はここで打ち切り、引き返す」ことを決断した。

やはり、房総の山は目標となる山がないことに加え、 尾根が四方八方に分岐しほんのわずか方向を間違え ただけでとんでもないところに出てしまうという厳 しさを、今日のコースで改めて認識した。

参加者: 山口文嗣(L), 三木雄三(SL)、小澤けい子、高橋琢子、髙橋正彦、廣村恵美子、三田博、 三田芳江、吉野聰(敬称略)。

清津峡と平標山

9月12日(土)~13日(日) 三田 博

JR 越後湯沢駅から湯沢高原ロープウェイで、家族連れに混じり「アルプの里」へ。今日はここから、栄太郎峠を越えて三俣までの通称「トレッキング湯沢」として整備されたコースを歩く。

身支度を整え、いきなり樹林帯の急登「一楠場コース」に入る。木々が夏の終わりの日差しを遮ってくれるものの、風が無く蒸し暑いせいで、ペースがなかなか上がらない。1時間あまりの登りで「栄太郎峠」の標識があり、ここで昼食にする。

栄太郎峠からは清津峡まで下る一方だ。広葉樹の原生林の中、急な山道を下りていく。これほど見事なブナ林はなかなかお目にかかれない。中でも「ブナ姫」と名が付いた巨木が印象的だった。足元にはたくさんのトチの実が落ちていた。ここは紅葉の季節もきっと素晴らしいだろうなと思った。

小さな沢を何度か徒渉しながら、1時間ほどで 清津川に出ると「栄太郎峠登山口」と標識が立っ ている。ここにザックを置き「鹿飛橋」まで往復 する。片道 0.8 *。しかないのに道が崩れて高巻い たり倒木の枝をくぐり抜けたりと、思いのほかハ ードで往復1時間近く掛かった。

ゴールの八木沢口まで 4.4 *nの川沿いの遊歩道は足場が悪いところもあり、最後はさすがに皆さん疲れ気味。三国街道に出ると隊列も長く伸びてしまい、道の駅「みつまた」で、吉野さんにばったり会うと、「まるで敗残兵」と言われてしまう。

今回の宿は三俣集落の民宿「清つ館」。小澤さんの25年来の常宿だそうで、夕食時には銘酒「八海山」のサービスをしてくれた。米どころ越後・ 魚沼のコシヒカリはとてもおいしかった。



翌日は、岩魚沢林道のゲートまで宿の車で送ってもらう。登山者用駐車場からさらに1.5キロほど奥なので得した気分だ。しばらく行くと水場があり、平元新道の登り口に出る。ここから平標山の家まではコースタイム1時間15分、樹林帯の中を木の階段が延々と続く。山の家でようやく稜線に飛び出たが、ガスで平標山も仙ノ倉山も見えたり隠れたりしている。

さらに平標山の山頂目指して再び木の階段を登るが、今度は尾根道なので気分がいい。時折、ガスの切れ目から雄大な仙ノ倉山の稜線が見える。 1時間ほどで標高 1,983 メートルの平標山の山頂に着くが、残念なことに展望は無い。大型ザック姿の山ガールが仙ノ倉方向から登って来た。避難小屋泊で谷川岳から万太郎山を経て単独で縦走中とか。颯爽としていて格好いい。

強風とガスに加えて雨予報もあり、予定の仙ノ 倉山は断念して来た道を下山することにした。迎 えに来てくれた宿の車で越後湯沢駅へ。ここで、 翌日は巻機山に登るという山想倶楽部コンビの吉 永・石原さんとは別れる。大先輩二人の健脚ぶり と山への情熱には恐れ入ります。雨の降り始めた 中、残った我々は、駅前のそば屋で打ち上げをし て千葉へ戻った。

今回、平標山から仙ノ倉山へ続く稜線を歩けなかったのは残念だが、東京駅から1時間半の越後湯沢周辺は意外に身近な山域だということが分かった。

参加者: 山口文嗣(L)、小澤けい子(SL)、石原達夫、川島辰雄、塩塚生二、三田博、三田芳江、 山本哲夫、山﨑完治、吉永英明、吉野聰(敬称略)。

シルバー万歳。上髙岩山ハイキング

9月20日(日)

三木雄三

シルバー週間の9月20日、男性8人が青梅線の御岳駅に集まった。支部だよりで呼びかけた「敬老の日ハイキング」に参加したメンバーだ。この日の最高齢者は黒田正雄さん79歳、一方、若手は会友の川島辰夫さん63歳。平均年齢は72歳。「ケーブルカーに乗るんだよね、まさか歩かないよね」と柳下さん。「僕もケーブルにのるのは初めてだ」と黒田さん。バスから降りて、みんな楽しそうにケーブルカー乗り場に並んだ。

標高差約 400 メートルを、たった 6 分で昇ってしまう。「やっぱり楽だなあー」と髙橋さん。 天気は晴れ。左手に日の出山が大きい。やがて国の天然記念物にもなっている神大ケヤキだ。記述によると、平清盛がいたころから生きているという代物。「ご利益にあらかって長生きしたいなあ」とは櫻田さん。急な坂を上り切るとスカイツリーが見えた。その先、水墨画のように水平に延びるのは房総半島だ。

昼には40分も早いが、水が流れるロックガーデンで昼食にした。若い女性たちが列をつくって歩



ホトトギス

いているが、だれも 我々のコースに来る気 配はない。食事を済ま せて先を急ぐ。ここロ ら先が梯子あり、コース。 急な坂に取り付いる もなく「なにが敬さ イキングだよ…」。振

り返ると、休んだ場所が谷底



だ。小板橋さんはドングリ集めに夢中の様子。や 世尾根の途中では「まだか、頂上は」「この先だ よ…」。稜線が見えてきたころ「ヒー、足が動か ないよ」。「もう少し、この上だ」。「さっきか ら、この上だ、この上だって、空にいっちゃうよ」 …。楽しい会話がぽんぽん飛び出す。岩尾根にツ ツジが混じるころ、尾根道に飛び出した。

サルギ尾根にチョコンと頭を出したのが、お目当ての上高岩山(1013メートル)で、12時40分に到着だ。東屋があり、おばちゃんたちが休んでいた。さっそく交流。笑い声がこだまする。みんな若い。

下る途中、長尾平に立ち寄った。テレビでも紹介されたワインの店。「健康には赤、美容には白」と店のソムリエ。さっそく赤ワイン飲んでみた。どうも味が分からない。すると「焼酎じゃないんだから、そんな飲み方じゃ…」。5時間50分の山の旅。みんな、良い気持ちになって「シルバー万歳」「年寄万歳」と言いながら杉並木の表参道を歩いて下りた。

参加者:三木雄三(L)、川島辰夫、黒田正雄、小板橋志朗、櫻田直克、髙橋正彦、柳下忠義、 山﨑完治(敬称略)。

睛香園の子供たちと高川山へ

10月3日(土)

湯下正子

晴香園から8名、千葉支部から8名、合計16 名の高川山山行に参加した。体調を気にしながら の参加でしたが、私の不安を消し飛ばすような好 天に恵まれ気分も良好。高川山は「2年前の金時 山山行の際に子供たちが富士山を見て感激した」 という職員の方のお話から、富士山が見える山と いう目的で決定されていたので、お天気が良いの に感謝。10月としては暑いほどのハイキング日和 だった。今回、それぞれが8:20高尾発、甲府行き の中央線に乗るという慣れない集合時間の設定に 次の電車で着いた人もいたが、問題なく初狩駅で 合流。三木リーダーの説明の後出発し30分くらい 歩いて男坂、女坂コースへの分岐点から沢コース を進む。広く歩き易い登山道で全員快調に歩き、 特に子供たちは元気ではしゃいでいた。途中、ツ ルツルの綺麗な石を拾って三木さんに見せたので、

「どうしてこんなにツルツル 綺麗になったのか」という三 木さんの説明に皆感心。石を 綺麗にしてしまう程の大量の 水は相模湖へ流れたのだとい う。ミズヒキ、ツリフネソウ



ツリフネソウ

の花も可憐に咲いていて花の名前の由来も説明され、なんとなく納得。歩き易い登山道だったので、 子供たちは話し続けながら登っていた。香高さん 母娘は子供たちから愛称をつけられ、以前からの 知り合いのように打ち解けていた。私もしりとり ゲームに加えてもらって気分良くなり、調子に乗 って連想ゲームにも加わった。ところが「甘い」 というので「あんこ」と言ったら、小学生の女の 子が何も連想できなか

参加者:晴香園 引率2名、生徒6名

千葉支部 三木雄三 (L)、小澤けい子、香高真奈美、香高ふみな、小板橋史朗、三田博、柳下忠義、湯下正子 (敬称略)。

っ続ったと一ばといこ9山に時たかて「かム良年をと月の参「よなしケ生にか代忘にに研加供うくまークすっのれ反子修しとでなっ!リれた違た。登会た登



山するときは話をしながら登れる山や速度を考慮 すること」と聞いていたので、そうすることが子 供たちにとって楽しい山登りになることを実感し た。約2時間で頂上に到着。12:00というお弁当 の時間に頂上は人で溢れていた。360 度の眺望は 見事な大パノラマを見せてくれた。大きな富士山 に「どこ?」「どこ?」と訊く子もいて大きな富士 山に皆びつくり。頂上には「大月 秀麗富嶽十二 景」と表示されていた。其の通りの富士山に子供 たちは大喜び。お弁当の後、下山は禾生駅へのコ ースを歩いた。駅に着いたとき、今回の山はバッ ジがないという小板橋さんの気遣いでグアム島の キーホルダーをプレゼントされ子供たちは大喜び。 小板橋さんの心遣いに感謝です。今回の高川山山 行は晴香園の子供たちと回を重ねていくことの大 切さを実感した嬉しい山行でした。

天神平と一ノ倉沢周遊 10

10月24日(十)

山口 文嗣

暖かな晴天に恵まれた秋の一日、谷川岳天神平と紅葉の一ノ倉沢岩壁鑑賞を楽しんできた。地下 80 mほどにある上越線土合駅に降り立ち、まずは地上の改札口まで、四百数十段の階段上りからスタートする。我々60歳代より上の山屋にとってこの駅と階段は非常に懐かしい思いがある場所であろう。上野駅から満員の夜行列車に揺られて午前 2 時頃に土合に着き、地上の待合室に良い仮眠場所を確保するために先を争って駆け上った思い出がある。今は夜行列車も廃止され、さぞや寂れているだろうと思って行ってみて、びっくり。多勢の若い観光客が降り立ち、写真を撮ったりしている。最近増えている鉄チャンやブームの鉄道遺産巡りの人たちのようである。

国道へ出て、上り線の踏切を渡り、谷川岳遭難慰 霊碑を通り、ロープウェイ駅へ。紅葉の最盛期を過ぎ ているせいかさほどの混雑もなく、15分程の空中遊泳 で、天神平に着く。さらにリフトに乗り継ぎ天神峠に登 る。天気は良いがあいにく視界がやや悪く、至仏山や 燧ケ岳は見通せないが、眼前には谷川岳の双耳峰からオジカ沢ノ頭、万太郎山、右側には白毛門、笠ケ岳、朝日岳が聳え立っている。

天神平で眺望を愛でながらお弁当を食べてから再 びロープウェイで下山。登山指導センターの前から旧 道を登り、マチガ沢、一ノ倉沢へと向かう。天神平の紅 葉は既に終わっていたが、旧道沿いはブナやサワグ ルミ、ミズナラの黄葉が真っ盛りであった。

一ノ倉沢では小疇先生から「谷川岳の氷河地形/ 一ノ倉沢を中心に」という、先生労作の小冊子を頂く。 谷川岳東面の地形が氷河作用により形作られたという 説明をお聞きし、氷河地形、モレーンの観察と解説を 受ける。今までただ沢や岩を登っていたが、谷川岳に



《紅葉と残雪の一の倉沢》

も昔氷河があったというお話を伺い、大変為になった。

帰路は湯檜曽川沿いの新道を戻る予定であったが、 崩壊のため通行止めになっていたので、往路と同じ 旧道をのんびり下った。バスの発車まで時間があった ので、登山指導センター下にある谷川岳山岳資料館 に立寄る。この資料館の館長は今年日本山岳協会の 会長に就任された群馬支部の八木原圀明氏である。 谷川岳の登山史や、谷川岳の動物、植物の資料・写 真から、昔の登山用具まで、豊富な資料を展示してあ る。山岳愛好家であれば一度訪れてみるべき場所で ある。

少人数であったが、かえって和気あいあいと、小疇 先生のお話しもしっかりと聞けて、楽しいハイキングで あった。

参加者:山口文嗣(L)、小疇尚、櫻田直克、塩塚生二、廣村恵美子(敬称略)。

雨に濡れた黄金色のカラマツ 小楢山を歩く

平成27年11月8日(日)

三田博

昨年から予約制の小型乗合バスが塩山駅から焼山峠まで入るようになり、行き易くなった奥秩父西部の小楢山。山梨百名山にも選ばれ、山頂からは御坂山塊越しに富士が眺められるという。紅葉のカラマツの森歩きを楽しもうと、総勢16人が塩山駅に集合した。

9:30、あいにくの小雨の中バスは塩山を出発。 柳平を経由して約50分で焼山峠に到着した。峠 の駐車場にはトイレもあり、雨装備のチェックを して10:30過ぎに歩き出す。コースは焼山峠か ら小楢山のピストンだ。

登山道に入ってすぐ、子授地蔵がある。子のない夫婦が一体持ち帰り、朝夕お祈りすると子が授かり、お礼に地蔵を二体にしてお返しするとかで、新しいお地蔵さんも並んでいた。

標高 1,500 にを超えているので広葉樹は既に葉を落としてしまっているが、雨に濡れた黄金色のカラマツが美しい。明るい防火帯のアップダウンが続く登山道を進むと、林の中に「的石」と言われる巨石が立っている。森はやがてシラカバやダ

ケカンバ「マカり、「根がかった」の分野である。 1712.5 にの 小楢山の広



い草原状の山頂に出た。時刻はちょうど 12 時だっ



た。山頂標識と立派な方位盤があり、晴れていれば南に富士山、西に南アルプス、北西に八ヶ岳、北に金峰・国師まで見えるらしい。しかし、残念なことにこの日は雨とガスで何も見えない。

屋根だけの休憩舎に先行グループが休んでいたが、入れ替わりに場所を譲ってもらい昼食にする。

下山は小楢峠を経て、一杯水の分岐に戻る。帰りは的石に寄り、鉱物に詳しい三木支部長に、ハンマーによる打刻音付きで解説してもらう。焼山峠駐車場に戻ってきたのは、14:00 過ぎだった。連絡すると、朝乗って来たバスが迎えに来て、柳平の金峰山荘まで乗せてもらう。ここで 15:25 定刻のバス発車時間まで休ませてもらう。我々のために急きょ店を開けてくれたのだという。雨具を脱ぎ、コーヒーや熱燗を各自が注文する。店のおばさんに甲州ブドウをごちそうになり、山荘のストーブにあたると、身も心も温まることができた。

参加者 三木雄三(L)、小澤けい子、神山良雄、香高真奈美、櫻田直克、佐藤明夫、塩塚生二、 高橋琢子、山崎完治、竹内紀子、三田博、三田芳江、柳下忠義、山口文嗣、湯下正子、 吉野聰(敬称略)。

自然保護観察会 銚子ジオパークに参加して

11月15日(日)

小澤けい子

天気予報では雨模様が心配された中、銚子駅で銚子電鉄に参加者全員乗り込み、車中では他にも観光客らしき人たちと乗り合わせながら、往復の切符を購入して小さいかわいらしい電車でのんびり出発した。

大吠駅で下車した駅舎の中ではかの有名な「ぬれ煎餅」を焼いているところを見ながら、 銚子ジオパークを案内してくれる方々と一緒 にさっそく、大吠埼灯台まで海岸通りを銚子 岬の成り立ちや地層の話を聞きながら散策を した。

銚子の東側の海岸は1億3万年前から1億 1万年前に海にたまった砂や泥から出来た岩 で貴重な地質の話を聞き、これらは国の天然 記念物に指定さていると言うところをよく見 ることができた。

大吠埼灯台は明治時代に英国人の設計により造られたとのこと白亜の立派な灯台を後にして地球の丸く見える丘公園まで移動する間には雨が上がり、空が明るくなってきた。

展望台ではあの利根川がゆったりと流れていたり、太平洋の海岸線が見えたり、海が丸く見えたり、陸地では緑のキャベツ畑が色鮮やかに見えて本当に地球が丸いことを実感できたこと。地球の成り立ちなど話を聞いて久しぶりに勉強をした気持ちになった。

銚子のもう一つの見どころである屛風ケ浦 海岸が見える場所まで移動した。ここでは、 海の中に降り積もった堆積物が何層にも重な



ってしま模様に見える場所や延々10キロに 及ぶ海岸の絶壁が続いていて英仏海峡のドー バーの「白い壁」に匹敵するといわれ、荒削 りで雄大なスケールは天気が回復した中だっ たので素晴らしい眺めだった。

夕闇迫る中、外川駅に向けて海岸通りを急ぎ足であったが、銚子マリーナ、外川漁港を眺めながら歩いた。外川駅に近づく頃にはまた、雨になってしまったが銚子市の風景を堪能した一日だった。外川駅から銚子駅までは一度は乗ってみたいと思っていた銚子電鉄で戻った。

今回の自然保護観察会は、わたし自身千葉 県に住みついて40年あまりになりますがな かなか訪ねてみたいと思っていた銚子に行く ことが出来とても良い思い出になり、また大 変勉強になった。特に古からの自然のダイナ ミックさを感じることが出来良かったと思っ ています。

参加者:鈴木美代(L)三木雄三 川口晃子、小澤けい子、櫻田直克、高橋琢子、山﨑完治、柳下忠義、 湯下正子,吉野聰 (敬称略)。

八方尾根で 今年へ番!

10月17日(土)~18日(日)

磯貝茉凛

私は、今年一番美しいものを見た。しかも一度 に二つも!

その素晴らしい光景を見せてくれたのは、長野 県白馬村にある八方尾根という山だ。

前日の夜からバスで出発し、起きたら山の麓に着いていた。まだ空は暗いが、だんだんと紺色から薄い青に変わっていく。遠くの山の様子も見えるようになっていった。

そこからまたバスで山を登る。窓から見える景色は明るくなっていて、そこで見た景色が今年一番だったのだ!

一つ目は、立派な紅葉! テレビでは見たことがあったけど、本物の紅葉は生まれて初めてだった。奥の山には雪が積もっていて、山の中にはポッポツ松の緑がある。

紅・白・緑で「クリスマスカラーだね」と言った。 もっと間近で見たいと思い、バスを降りると、 鼻がツーンとするほど空気が冷たかった。でもそ





こで、二つ目の今年一番を見つけた。

麓の方に雲がワァーッと広がっていて、朝日が それを照らすので、神様が降臨してくるような景 色だった。

素晴らしい秋を見ることが出来て本当に良かった。

そして、私にはもう一つの思い出がある。 それは弟が旅館の料理を残さず食べたことだ! 普段は食べ物に興味が無くて、旅館の料理をきちんと食べてくれるか心配だった。でも旅館の料理 が美味しかったのと、ここはしっかりと食べない といけないと思ったのか、全部食べてくれた。こ のことに私も母もすごく感動した。

「えらい!」「やるときはやるじゃん!」とほめま くった。

千葉ではなかなかできない経験がたくさん出来 た。日本は素晴らしい国だ。本当に感謝。

そして・・・旅館で食べた鮎の塩焼きが、もう一 度食べたくなった。

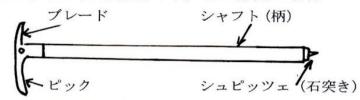
磯貝茉凛さんは中学2年生。この夏、お母さん、弟とともに千葉支部の有志と行った 八方尾根の思い出を活き活きとまとめてくれました。

登山のA B C (連載)

第6話 図解による雪上技術 (雪溪)

髙橋正彦

雪溪ではピッケルは必需品です。その部位の名称

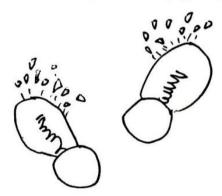


長さはベルトの位置にくる長さがよい。 アイスクライミングをやる方は短いシ ャフトの方がよい。

1. ズッポ (アイゼン付けない) の登行 (ズッポは一般名詞ではありません)

基本:つま先から内側の靴底で雪を削り取って進む。

これをキックステップといい、膝から下を後ろに曲げ、テコの応用で力強く雪面を削る。



2. ズッポの下降

基本:全体重 をかけ、清水寺 の舞台から飛び降 りる気持ち踵で雪面 を削り取って下る。 この場合、膝は曲げない。

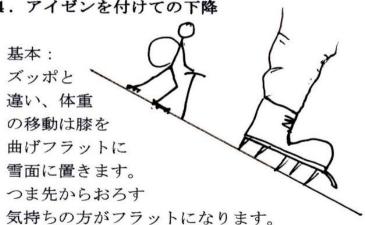
ピッケルは突かないで、両 腕で抱えて持つ。理由はスリ



3. アイゼンを付けての登行

基本: 体重 を掛け雪面に フラットに足を 置きます。

4. アイゼンを付けての下降



★アイゼンを装着した場合は登行も下降もツアッケ (アイゼンの爪) をズボンに引っ掛けな いためにガニマタ歩きが一段と重要です。(続きは次号で)

こんにちは

50歳からの山登り

山田紀夫

本年7月より会友に加えていただきました。現在65歳、酒々井町在住です。よろしくお願いいたします。

1.山登り

年齢の性でしょうか「登山」という言葉に少し抵抗を感じています。それは、その言葉に何故か、厳しく辛く特殊な世界を感じるからです。その為、意味は、同じですが私の登山は「山登り」と言うようにしています。

2.何故 50 歳まで山登りをしなかったのか? 突然に「山登り」に目覚めた人は沢山います。私は50 歳からです。

50 歳までどうして山登りをしなかったのかという問いに「仕事が忙しい」と答えるのは違います。 どんなに忙しくても好きなことは時間を割きます。 どうして 50 歳まで山登りをしなかったのかという問いの答えは、「山登りの楽しさが実感できる機会が無かった」ということだと思います。

3.山登りを続けてきた訳

私なりに、山登りを長く続けられてきた訳を①山 に感動し②自分なりの登り方を発見し③山登りの 目標を持ってきたことだと思っています。

① 山に感動

それは、「北アルプス表銀座コース」です。初めての本格的山登りを大学時代山岳部だった妻に連れられて登りました。中房温泉から合戦尾根を登り燕山荘で初めての山小屋泊まりを経験し、翌日、晴天の稜線を歩いていたときずっと眺めながらの槍ヶ岳。今までに味わったことのないような最高に良い気分。それが山に感動したときでした。

② 自分なりの登り方を発見

それは単独行です。ある日、初めて一人で山に登りました。それが、日光の「太郎山」(2368m)



です。その日は、大型台風が去った翌日。当初予定していた登山道が通行止めになり、急遽別ルートで登ることに少し不安感もありました。しかし、天気も良く、何よりも、この日、山登りしている人は私以外誰もいない。山を独り占めしている。山頂からの素晴らしい景色は自分ひとりのものだ。その時、自然の雄大さに自分が溶け込み自分も大きくなった気分になりました。そのことが、強く思いに残り、以来、単独での山登りの魅力に取り付かれました。

③ 山登りの目標

「単独で日本の 3000m峰全制覇」でした。当初は日帰りできる近くの 2000m級の山を登っていましたが、お盆休みを使って登った槍ヶ岳で北アルプスの雄大な懐の深さに魅せられ、それ以来、「単独 3000m峰全制覇」は、自分の目標として掲げて登ってきました。目標を持つことで山登りが続けることが出来、登るほどに楽しさが増してきたように思います。結果として 10 年後、21 座の

3000m単独制覇を果たすことが出来ました。

(11ページ下段に続く)

会員増やし、支部活動の活性化を

平成27年度支部合同会議の報告

三木雄三

日本山岳会の平成 27 年度支部合同会議が 9 月 26 ~27 日都内で開かれ、本部理事会のメンバーと 32 支部の代表らが「山の日」の取り組みや支部活性 化などに関する意見交換を行った。会員数の減少に伴う財政問題について小林政志会長が「現状は厳しい。打開のため再生委員会を立ち上げた。支部の活性化で会員を増やし、財政の基盤を強化していきたい」とあいさつした。



会 動 見 る 2000 年 の 5990 人 に 対

し2014年は5036人と14年で約1000人も減少した。また会費免除会員が400人を超えたことや高齢による退会が主な原因となり、その結果、会費収入は1500万円以上も減少し、財政は「危機的状態」となっている。

会費収入が増えないと財政基盤が危ういことから、意見交換では「新入会員をいかに増やすか」を中心に進み、「支部独自に設けた制度の会友か

ら入会者を増やす。県岳連と協力する。登山教室 や親子登山教室を開く」(東海、広島)、「一般公 募して登山教室を開催するなど活発な活動で会員 を増やす」(東京多摩)などの事例が紹介された。 将来のリーダーを育てる目的で若い人に入会を働 きかけることや、「親子登山」に参加した親に入 会を勧めること。地元のマスコミと協力して里山 ハイキング、登山教室を開くなどの例も出た。

また、来年からスタートする「山の日」の取り 組みについては13支部が「事業を実施」と回答し、 登山道環境整備や親子登山、一般公募者を交えた 交流登山、森林インストラクターによる森の教室 などが予定としてあがっている。

このほか、千葉支部などが実施している千葉・ 茨城・栃木・群馬による四支部懇談会のように近 隣の支部をブロックにして支部事業の推進を図る 「ブロック割」や、山岳会の赤字解消策として聖 域なき経費削減として会報「山」や「山岳」のコ スト削減や支部交付金の減額も素案として提案さ れたが、「山」の発行を減らすことには情報が減 るとして「反対」の意見が出された。33番目の支 部として神奈川が来年発足する予定。

(10ページからの続き)

4.これからの山登り

今年 65 歳、体力低下を自覚するようになりました。山は低山といえども危険に満ち溢れ、一人で登ることに不安を感じています。その為、現在は、登山道が整備され、登山者の多い「百名山」を中心に登っています。しかし、今後は、出来るだけ仲間と登りたいと思います。その為にも、今回、

山岳会に入会させていただきよかったと思っています。今までは、時間に追われ山頂に立つことに重点を置いてきました。今後は、写真を撮りながら、登る過程を楽しみ、体力に合った山登りを続けて行きたいと思います。山岳会の皆様、今後ともよろしくお願いいたします。

芳賀さん夫妻を囲む会

10月22日(木)

結城純一

元千葉支部顧問の芳賀孝郎さんと奥様の淳子さんを囲む会が10月22日、千葉市内の会友の店「美弥和」で開かれた。新しい会員、会友の方は芳賀さんと言っても判らないと思いますが、芳賀さんは半世紀も前の1958年にカラコルム山脈の未踏峰チョゴリザ(7654メートル)登頂に成功した遠征隊に参加した方。また、元日本山岳会の副会長で千葉支部設立の発起人として千葉支部の生みの親でもあります。

現在は郷里の札幌に戻り、北海道支部で活躍されています。今回は、霧ケ峰で講演会の講師を務め、古巣の千葉に立ちよるとの事で、急きょ芳賀さんに縁のある14人の会員が集まり、芳賀夫妻を歓迎した。



三木雄三支部長が「まずは北海道支部の創立 50 周年おめでとうございます。お祝いに千葉の銘酒 を送りましたので飲んで下さい。大先輩とこうし て酒を酌み交わしながら山の話ができて楽しい」 と挨拶。なごやかなひと時を過ごした。

千葉支部ホームページを開設

千葉支部のホームページを開設しました。アドレスは http://www.jac.or.jp/author7cac1/ です。

写真のスライドショーと支部紹介、下に最新ニュース、トピックス、お知らせ報告と並び、右端にカテゴリ毎のブログ記事の配置となっています。スライドショーの写真は、御殿山、伊予ガ岳、花嫁街道、鋸山等 14 枚と、他の山で総数 75 枚です。個々の写真を拡大してみることもできます。

また、日本山岳会のホームページからも「日本 山岳会の活動案内」→「千葉支部」→「千葉支部 ウェブサイト」と辿れます。

これからホームページを充実していくため、皆様の個人山行情報をお送りください。簡単な文に写真も付けて送って下さい。計画又は希望の山でも結構です。だれが何処を登っているか、登りた

山本哲夫

い新をてす他のおてかの掲参。、情様りそ沢報ちま最報しまの山をしず



E-male 支部だより参照 山本哲夫宛

なお、このホームページは日本山岳会デジタルメ ディア委員会大塚幸美氏の協力により公開にこぎ つけました。お礼申し上げます。

親子登山研修に参加して 9月19日(土)~20日(日)

基礎と実践を学ぶ

高橋琢子

日本山岳会「家族登山」普及委員会、支部事業 委員会が主催する「親子登山教室」指導者研修会 に、湯下さんと参加した。

9月19日(土)、子ども3名とスタッフを含む 16 名が新宿駅に集合し、小諸市にある「安藤百福 記念 自然体験活動指導者養成センター」に向か った。日清食品創業者安藤百福の「食とスポーツ は健康を支える両輪である」という理念を基に、 自然体験活動の指導者を育てることなどを目的と して設立された施設だ。山の中腹に、風景に溶け 込んだように建つシックな建物が印象的だった。 千曲川を挟んで真正面には浅間山がどっしりとし た姿を見せていた。



講師は大蔵喜福 会員。マッキンリー に何度も登頂し、登 山家・冒険家・アウ トドア学校の校長 などいろいろな顔 を持ち、ユニークで 魅力的だった。

講習は登山の基

礎知識から始まり、登山の魅力や健康管理・自然 科学・安全知識・地形図の見方など、登山に必要 な知識と技術までおよんだ。その中で大蔵会員が 強調したのは、最初に子どもを連れて山に行くと きは、1. 天気が良い日であること 2. 頂上の見 える山(低い山で良い)であること 3. 気づく場 所を作る(山に限らず、花・虫・雲・風など)と いうこと。心に刻んだ。

20日(日)、いよいよ実践の黒斑山にハイキン グ。センターからの浅間山は雲の中。6・8・11歳 の子どもたちは大丈夫だろうかと心配したが、子

どもは身が軽く岩場もひょいひょい。ところが、 ちょっとしたことで気持ちもすぐ変わった。美味 しいおやつは頑張りのもとになり、一つつまずけ ばなかなか機嫌が直らない。一度に何人も駄々を こねたらどうなるんだろう?!一人でも大人の言 うことを聞かない子がいたらどうなるんだろ う?!けがをしたら?!そんな心配が頭をよぎる。 励まし、励まし頂上をめざす。トーミの頭まで全 員無事到着し、元気の残っていた子どもたちがも うひと踏ん張りして頂上に立った。その顔はとて もほこらしげに見えた。

本当にいろいろ勉強になった研修会だった。全 員が楽に登れたら心配しなかった、であろうこと を事例として考えることができたことが一番だっ

千葉支部での「親子登山」は、これからの支部 運営に盛り込まなければならない重要企画だと思 う。今回の研修会を基礎として勉強を重ね、楽し く子どもたちとハイキングができる企画運営を考 えたい。



お知らせ

全国支部懇談会のご案内

第32回全国支部懇談会が越後支 部の主催で開催されます。

右の開催概要を確認の上、積極的にご参加ください。

なお、申込み締切が会報「山」では1月15日になっていますが、会場の都合でひと月前倒しとの連絡がありました。

また、支部だより9月号の原稿締切り後に募集要項の発表があったので、今回 ぎりぎりのご案内となっています。お急ぎ下さい。

四支部懇談会の締切りも間近 (12/20)です!「あんこう鍋」で すよ!!

(全国支部懇開催概要)

- 1. 期 日 2016年4月9日(土)~10日(日)
- 2. 場 所 新潟市西蒲区 岩室温泉「ゆもとや」 無料送迎バス有り
- 3. 参加費 16,000 円 (一泊三食、二次会、親睦登山込)
- 4. 日程:4月9日(土) 12:30受付開始,

13:30 開会

4月10日(日) 記念山行

(山行のコース)

A コース 弥彦山塊縦走コース 5.5 時間 定員 35 名 B コース 弥彦山旧裏参道コース 4 時間 定員 65 名

C コース 弥彦山塊周遊コース 4時間 定員35名

5. 申込み、問合せ 高橋琢子

メール 支部だより参照

電話 0436-22-5848

6. 最終締切り 12 月 15 日 (火)

会員の動向

新入会員〈11月30日現在〉 M.Hさん 会員番号 15872

事務局から(他支部会報の閲覧)

全国から届いている支部報の閲覧を希望する方は、事務局までお申し出ください。 一会員一週間の期限で、貸出致します。返却は郵送でお願いします。

(宮城支部、信濃支部、埼玉支部、東京多摩支部、東海支部、東海支部・猿投の森づくりの会)

海外山行(ニュージランド)の中止

32 号でお知らせした海外山行(ニュージーランド)は所定の人数に達しなかったため残念ながら中止となりました。支部としては今後も会員・会友の意見を踏まえ海外山行を計画してまいります。

役 員 会 の報 告

9月報告 9月15日(火) 市川アイリンク (出席者:敬称略、五十音順)

出席者 鈴木、高橋、三木、山崎、山本、湯下、吉野 7名

- ◎協議事項
- ・山の日関連行事の取り組みについて (千葉の山の写真集め、山の日記念映画会)
- ・支部のHPの構築について(山本委員広報委員を兼務して担当)
- 10月報告 10月20日(火) 市川アイリンク

出席者 坂上、鈴木、高橋、三木、山﨑、山本、吉野 7名

- ◎協議事項
- ・山の日関連事業の取り組みについて (映画会と写真展同時開催を予定)
- ・親子登山の取り組みについて(支部の取り組みの具体化について)
- ・支部だよりの印刷について (三陽メディア株式会社に依頼)
 - ・ニュージーランド遠征の中止について
- 11 月報告 11 月 15 日 (火)

出席者 小板橋、坂上、三木、山口、山本、湯下、吉野 7名

- ◎協議事項
- ・山の日関連事業の取り組みについて(映画会、写真展を市川周辺で8月前後)
- ・10周年関連(記念事業として記念のグッズの作成、千葉の山のトートバックを検討)
- ◎報告事項
- ・支部ホームページの立ち上げ
- ・親子登山の取り組み状況 (途中経過の報告)

編集後記

支部だより 33 号をお届けします。お気づきのことと思いますが、31 号から全頁をカラ―化しました。やはりカラーの紙面の方が見栄えが良いと思います。さらに本号から印刷を三陽メディア (株) にお願いし、印刷したものを直接皆様のもとに送っていただいております。また、千葉支部のホームページも新たに立上げ最新の情報をお届けできるようになりました。広報委員会もこの新しい環境のもとで、千葉支部会員・会友の絆が深まっていくことを目指して歩んでまいります。(広報委員会)

印刷 三陽メディア株式会社

日本山岳会千葉支部

山 行 の 予 定

(12月19日以降、支部行事等含)

(127) 10 日外門、入即川井寺口)			I	
行 き 先	日程	申 込 先	締切	備考
郡界尾根 第6回	12.19 (土)	山口文嗣 支部だより参照	12.13 (目)	
富山	12.23 (水)	高橋琢子 支部だより参照	12.16 (水)	麗山会と共催 山上で鍋を楽しむ
郡界尾根 第7回	1.9 (土)	山口文嗣 支部だより参照	1.4 (月)	
手賀沼散策	1.16(土)	湯下正子 支部だより参照	1.9 (土)	「白樺派」の文人 ゆかりの地を巡る 散歩
新年山行 鎌倉衣張山	1.23 (土)	山口文嗣 支部だより参照	1.17 (日)	名越切通と 富岡八幡宮初詣
四支部懇談会	2.6(±) ~2.7(日)	高橋琢子 支部だより参照	12.20(日)	茨城県大洗町 大洗ホテル
郡界尾根 第8回	2.20(土)	山口文嗣 支部だより参照	2. 13 土)	
黒斑山	3.5 (土) ~3.7 (月)	坂上光恵 支部だより参照	2.29 (月)	冬山入門(黒斑山) と男の料理教室 1泊でも可
郡界尾根 第9回	3.19(土)	山口文嗣 支部だより参照	3.12 (土)	
宝篋山	3.28 (月)	湯下正子 支部だより参照	3.21(月)	(公益事業 晴香園)
郡界尾根 第10回	4.2(土)	山口文嗣 支部だより参照	3.26 (土)	
お花見山行 奥多摩倉戸山	4.23 (土)	山口文嗣 支部だより参照	4.16 (土)	ヤマザクラ咲く 奥多摩湖から登る